

ランチョンセミナー V(LS-5)

審美領域におけるEMDの応用

～天然歯からインプラント治療にいたるまで～

近年、多くの研究によって歯周病のメカニズムが解明されてきたことに伴い歯周組織再生の分野の研究も飛躍的進歩を遂げ、我々は臨床の現場で多くの恩恵を受けている。歯周再生療法にまつわる様々なマテリアルや術式が開発、考案されその結果、以前では保存が困難であった歯牙の保存も可能となったが、我々歯科医師はその適応症を見極め何が最善の結果を得る事が出来るのかを考え選択し治療に臨まなければならない。しかしながら歯周再生療法では硬組織の再生量や軟組織の退縮、歯間乳頭の喪失など、予測通りの治療結果とならないことも多い。そのため治療計画の変更を余儀なくされることもあり、とすれば患者との信頼関係を損ないかねない。

そこで、EMDは20年にわたり多くの研究やケースレポートが発表され、その効果は再生療法、根面被覆、インプラント治療など多岐にわたり有用であることが証明されている。実際、私の臨床においてもEMDのもたらす効能により以前まで困難であった症例においても良好な結果が得られている。EMDは、時として自身の手技の未熟さをも補ってくれるものであり、治療結果を良好に導く大きな一助となっている。しかしながら、いくら優れたマテリアルであっても的確な診断、正しい術式選択、正確な手技などの基礎から築き上げた土台がなければ治療の成功は望めない。そのうえで材料の特性を十分理解し正しく使用することが重要である。

このように、使用材料や技術の進歩により多くの歯を保存できるようになったが、すべての歯を保存できるわけではない。残念ながら抜歯となり歯列に欠損が生じた場合、インプラント治療を併用することで残存歯の保存と歯列の連続性を保つことが出来るのは周知の事実である。そして、多くのケースでインプラント埋入部位に対して骨造成やCTG、FGGなどによる歯肉のマネージメントといった治療オプションが必要となり、天然歯の場合と同様に様々な材料、術式の中から最善のものを選択しなければならない。このようにインプラント周囲の環境を確立することが、インプラントだけでなく周囲残存歯、しいては口腔内全体の長期安定性につながると考えられる。前述したように、天然歯における再生療法やインプラント周囲組織における再生療法においても基本的な知識や手技が礎となり、様々な治療法、骨補填材やEMDなど我々臨床家は常に新しい知識や技術を修得し患者に提供していかなければならない。つまり、再生療法成功には歯周外科におけるラーニングステージを着実に昇ることが重要となる。今回、再生療法や根面被覆、インプラント治療など様々な症例を通じEMDの効果を考察する。



演者

瀧野 裕行 先生

(タキノ歯科医院 ペリオ・インプラントセンター)

- ・朝日大学歯学部 歯周病学講座 客員教授
- ・東京医科歯科大学 歯周病学講座 非常勤講師
- ・東京歯科大学 歯周病学講座 元客員講師
- ・大阪大学 歯学研究科 招聘教員
- ・日本臨床歯周病学会 会員/認定医

- ・日本歯周病学会 会員
- ・日本口腔インプラント学会 会員
- ・日本先進医療研究施設 (JIADS) 理事長
- ・OJ (Osseointegration Study Club of Japan) 副会長
- ・AAP(American Academy of Periodontology) 会員

日時

2019年

5月25日(土)

12:30-13:20

会場

C 会場

神奈川県民ホール 6F 大会議室

ランチョンセミナー整理券配付について

◆ 配付場所：神奈川県民ホール 2F 大ホールロビー 総合受付付近

◆ 配付日時：5月25日(土) 8:30～12:00 (なくなり次第終了)

【注意事項 (整理券有効期限)】 整理券はセミナー開始と同時に無効となります